

千葉県新港清掃工場
リニューアル整備・運営事業
審査講評

令和7年12月15日

千葉県PFI事業等審査委員会

《目 次》

1	千葉市P F I 事業等審査委員会.....	1
2	審査方法.....	2
3	審査委員会開催経過.....	3
4	審査結果の概要.....	4
	（1） 応募者.....	4
	（2） 入札参加資格審査.....	4
	（3） 入札参加資格審査結果の通知.....	4
	（4） 基礎審査.....	5
	（5） 非価格要素審査.....	5
	（6） 価格審査.....	9
	（7） 総合評価点の算出及び最優秀提案者の選定.....	9
5	総評.....	11

1 千葉市PFI事業等審査委員会

千葉市は、千葉市新港清掃工場リニューアル整備・運営事業における事業者の選定にあたり、専門的意見に基づき公平かつ客観的な審査を実施するため、千葉市PFI事業等審査委員会（以下「審査委員会」という。）を設置した。審査委員会を構成する委員は、学識経験者等から選出された次の6名である。

千葉市PFI事業等審査委員会委員（第1回委員会、第2回委員会、第3回委員会）

所 属	委 員 名
青山学院大学大学院会計プロフェッション研究科 教授	山口 直也
東京電機大学未来科学部建築学科 教授	山田 あすか
西村あさひ法律事務所・外国法共同事業	西谷 和美
株式会社日本政策投資銀行地域調査部 次長	酒井 武知
元 多摩大学グローバルスタディーズ学部 教授	橋詰 博樹
公益社団法人全国都市清掃会議 技術部長	八鍬 浩

千葉市PFI事業等審査委員会委員（第4回委員会、第5回委員会）

所 属	委 員 名
青山学院大学大学院会計プロフェッション研究科 教授	山口 直也
東京電機大学未来科学部建築学科 教授	山田 あすか
西村あさひ法律事務所・外国法共同事業	西谷 和美
株式会社日本政策投資銀行地域調査部 次長	原 太充 ※
元 多摩大学グローバルスタディーズ学部 教授	橋詰 博樹
公益社団法人全国都市清掃会議 技術部長	八鍬 浩

※人事異動により交代

2 審査方法

審査方法の詳細については、落札者決定基準書に示すとおりである。

本事業では入札参加資格審査を実施した後、基礎審査を実施した。その後、応募者から提出された事業提案書の内容を評価して得点化する非価格要素審査及び入札価格を得点化する価格審査を実施し、非価格要素点と価格点の合計値を総合評価点とし、総合評価点に基づき最優秀提案者を選定した。このうち非価格要素審査の実施にあたっては、事前に応募者へのヒアリングを実施し、事業提案書の内容についての理解を深めた。

なお審査にあたっては、応募者番号のみが記載された審査資料に基づき審査し、応募者の匿名性を確保した。

3 審査委員会開催経過

審査委員会の開催経過等は、表－１に示すと通りの日程により実施した。

表－１ 審査委員会の開催経過等

日 程	内 容
令和６年１１月２９日（金）	第１回 千葉市ＰＦＩ事業等審査委員会 （実施方針（案）、要求水準書（案）等の審議）
令和６年１２月２０日（金）	実施方針及び要求水準書（案）等の公表
令和７年１月１６日（木）	実施方針等に関する質問・意見の受領
令和７年２月７日（金）	実施方針等に関する質問・意見への回答公表
令和７年２月１３日（木）	第２回 千葉市ＰＦＩ事業等審査委員会 （入札説明書（案）、特定事業の選定（案）等の審議）
令和７年３月１２日（水）	第３回 千葉市ＰＦＩ事業等審査委員会 （要求水準書（案）、基本協定書（案）、事業契約書（案）、落札者決定基準書（案）等の審議）
令和７年３月２７日（木）	特定事業の選定・公表
令和７年４月１４日（月）	入札公告及び入札説明書等の公表
令和７年４月２５日（金）	第１回入札説明書等に関する質問の受領 【入札参加資格に関する質問】
令和７年５月７日（水）	第１回入札説明書等に関する質問への回答公表 【入札参加資格に関する質問】
令和７年５月９日（金）	第１回入札説明書等に関する質問の受領 【入札参加資格以外に関する質問】
令和７年５月２３日（金）	入札参加資格審査申請書類の受領
令和７年６月６日（金）	第１回入札説明書等に関する質問への回答公表 【入札参加資格以外に関する質問】
令和７年６月６日（金）	入札参加資格審査結果通知及び応募者番号の交付
令和７年６月１９日（木）	現地見学会の実施
令和７年７月１日（火）	対面での対話の実施
令和７年７月１１日（金）	第２回入札説明書等に関する質問の受領
令和７年８月１日（金）	第２回入札説明書等に関する質問への回答公表 修正後の要求水準書等の公表
令和７年９月５日（金）	事業提案書等の受領
令和７年１０月１５日（水）	第４回 千葉市ＰＦＩ事業等審査委員会 （入札参加資格審査結果の報告、基礎審査等の審議）
令和７年１１月２０日（木）	第５回 千葉市ＰＦＩ事業等審査委員会 （応募者ヒアリング、非価格要素審査、価格審査、総合評価等の審議）

4 審査結果の概要

(1) 応募者

令和7年4月14日に入札公告及び入札説明書等を公表した本事業は、1者から入札参加資格審査申請書類が提出された。

(2) 入札参加資格審査

入札説明書で示した入札参加資格を応募者が満たしていることを表-2に示すとおり確認した。
なお、入札参加資格審査は事務局において実施した。

表-2 入札参加資格審査結果

項 目	審査結果
ア 共通の参加資格要件	合 格
イ 当該業務を行う者の参加資格要件	合 格
(ア) 本件施設のプラントの設計・建設を行う者	合 格
(イ) 本件施設の建築物等の設計・建設（改修）を行う者	合 格
(ウ) 本件施設の既存設備解体撤去を行う者	合 格
(エ) 運営事業者から本件施設の運営・維持管理業務を受託する者	合 格

(3) 入札参加資格審査結果の通知

令和7年6月6日に入札参加資格審査結果を応募者に通知した。

また併せて、応募者番号を「緑グループ」と設定することも通知し、企業名等を伏せてその後の審査を行った。

(4) 基礎審査

応募者から提出された事業提案書について、落札者決定基準書に示す基礎審査項目を満たしているかを審査した。審査結果については、表－３に示すとおりである。なお、以下に示す各様式による提出書類の全てを、基礎審査の対象とした。

- (様式６－１) ～ (様式６－３) : 技術提案書
 (様式７－１－１) ～ (様式７－１０) : 事業計画に係る提出書類
 (様式８－１) ～ (様式８－１３) : 非価格要素審査に係る提出書類

表－３ 基礎審査結果

項 目	応募者
	緑グループ
必要な書類がそろっているか。	合 格
書類間の整合が図られているか。	合 格
提案書の内容が要求水準を満たしているか。	合 格

(5) 非価格要素審査

ア 審査項目の評価基準及び得点化方法

応募者から提出された事業提案書の(様式８－１)～(様式８－１３)非価格要素審査に係る提出書類の内容を、落札者決定基準書に示す１３項目について、表－４に示す評価基準にしたがって、委員の合議により得点化した(配点６０点)。

表－４ 審査項目の評価基準及び得点化方法

評価	評価基準	得点化方法
A	当該評価項目において特に優れている	(配点× １)
B	AとCの中間程度	(配点×0.75)
C	当該評価項目において優れている	(配点× 0.5)
D	CとEの中間程度	(配点×0.25)
E	要求水準を満たす程度	(配点× 0)

イ 審査結果一覧

非価格要素審査結果は表－５に示すとおりである。

表－５ 非価格要素審査結果一覧

項 目	配点	緑グループ
１ 安全で安定稼働できる施設		
ア プラントシステムの信頼性	6	4.50
イ 人員体制	6	4.50
２ 循環型社会・脱炭素社会に貢献する施設		
ア 最終処分排出量	6	4.50
イ エネルギー回収率（22.0％以上）及び発電量	6	6.00
３ 環境にやさしい施設		
ア 二酸化炭素排出量	4	3.00
イ 省資源・省エネルギーへの対応	4	3.00
４ 災害に強い施設		
ア 災害時の管理体制	5	3.75
５ 環境意識の充実を図った施設		
ア 展示・学習内容の充実	3	2.25
６ リニューアル工事の適切性		
ア 工程管理計画	4	2.00
イ 品質管理計画	4	2.00
ウ 安全管理計画及び環境保全管理計画	4	2.00
７ 事業計画		
ア 事業実施体制	4	3.00
イ ライフサイクルコストの低減	4	3.00
非価格要素点	60	43.50

ウ 非価格要素審査の講評

非価格要素審査の講評は表－6に示すとおりであった。

表－6 非価格要素審査の講評（1／2）

審査項目	講 評
1 安全で安定稼働できる施設	
ア プラントシステムの信頼性	<ul style="list-style-type: none"> ・本件施設と同種、類似規模で納入した施設における安定運転実績に基づき、信頼性、耐久性があり、安定して使用できるプラントシステムについて、優れた提案がなされていた。また、事故、故障時の予防措置及び安全性等の設定について、優れた提案がなされていた。 ・プラントの点検及び補修が容易であり、リチウムイオン電池等による火災等のトラブル未然防止を図ったプラントシステムについて、優れた提案がなされていた。 ・特に上記2点について、代表企業の長年にわたる技術の蓄積に裏付けされた最新技術の積極的な導入と、プラント設備についてメンテナンスの容易性を十分に考慮した提案がなされている点を評価した。
イ 人員体制	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な運転実績や資格を有する専門技術者の配置を考慮した運転管理体制の提案がなされていた。役割分担も適切であり、特に運転員について、1班あたりの配置人数が充実している点を評価した。 ・人材育成方法について、運転・保全技術の観点から階層別の教育を具体的に提案している点を評価した。
2 循環型社会・脱炭素社会に貢献する施設	
ア 最終処分排出量	<ul style="list-style-type: none"> ・計画ごみ処理量に対する主灰と飛灰処理物の発生量の算出根拠が適切であり、発生量削減に係る優れた提案がなされていた。特に、飛灰処理物の発生量の削減に係る提案が具体的かつ効果を期待できる内容であった点を評価した。
イ エネルギー回収率（22.0%以上）及び発電量	<ul style="list-style-type: none"> ・エネルギー回収率の算出根拠が、環境省の「エネルギー回収型廃棄物処理施設整備マニュアル（令和3年4月改定版）」に基づいており、操炉数が3炉（基準ごみ）の場合のエネルギー回収率22.0%を達成するための具体的で優れた提案がなされていた。特にボイラシステムについて、既存建築物の構造を踏まえて、熱回収や蒸気利用の効率に最大限配慮した提案がなされていた点を評価した。 ・発電出力の効率化について、運営期間中のごみ量・ごみ質の変化・変動を見据えた、具体的かつ優れた提案がなされていた。
3 環境にやさしい施設	
ア 二酸化炭素排出量	<ul style="list-style-type: none"> ・年間の二酸化炭素排出量（補助燃料使用、購入電力使用由来）の低減について、優れた提案がなされていた。特に補助燃料使用量の低減やプラント設備の省エネルギー化に資する具体的かつ効果を期待できる提案がなされている点を評価した。また、発電量の最大化と消費電力量の低減による二酸化炭素排出量の間接削減量（売電由来）の最大化を目指す点を評価した。 ・工事施工に由来する二酸化炭素排出量の削減方法について、具体的かつ実行可能性の高い提案がなされていた。
イ 省資源・省エネルギーへの対応	<ul style="list-style-type: none"> ・用役使用量の最小化の観点から、省資源・省エネルギーに寄与する機器の採用等の考え方及び想定される効果について優れた提案がなされていた。特に、プラント設備の省エネルギー化に資する具体的かつ効果の期待できる提案がなされている点を評価した。 ・省資源に関する低環境負荷材料（エコマテリアル）の使用の考え方（使用品目、量等）について具体的な提案がなされていた。
4 災害に強い施設	
ア 災害時の管理体制	<ul style="list-style-type: none"> ・地震対策として、既存施設と同等の耐震安全性の確保、商用電源遮断時の立上げ用電源及び用役確保、高潮対策についての提案がなされていた。特に耐震安全性の確保や高潮対策について、具体的な提案がなされている点を評価した。 ・災害時（水害、地震、火災、停電、故障、その他緊急事態）における連絡体制、運転管理体制及び運転方法について、優れた提案がなされていた。また、用役、消耗品ならびに職員の防災備蓄等の災害時の確保方法について、経済性に配慮し優れた提案がなされていた。特に災害時のバックアップ体制は、要求水準を超える提案であり、効果を期待できる点を評価した。

表－6 非価格要素審査の講評（２／２）

審査項目	講 評
5 環境意識の充実を図った施設	
ア 展示・学習内容の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみ焼却の仕組み、環境保全対策、資源循環型社会、脱炭素社会に向けた取組など、子供から大人までの多くの人々に理解し、楽しんでもらえる見学内容の提案がなされていた。特に、見学者が親しみやすい多様で魅力的な参加型・体験型の見学者設備をコストにも配慮しながら提案している点を評価した。 ・学習内容について、本事業の整備手法の特性を考慮した内容や、将来的な社会変化への対応も見据えた提案がなされていた。 ・学習効果を維持するため、ソフトやハードの保全計画が適切で優れた提案がなされていた。特に、展示物内容の陳腐化を避けるため定期的な更新が提案されている点を評価した。
6 リニューアル工事の適切性	
ア 工程管理計画	<ul style="list-style-type: none"> ・既存施設プラント解体及びリニューアル工事の工程と、その管理手法について適切な提案がなされていた。 ・働き方改革関連法や４週８休制を踏まえ、長時間労働の改善を行った上で、本事業における工期遵守に向けた適切な工程管理の手法やマイルストーン（中間目標）を意識した全体工程について、適切な提案がなされていた。特に、工期遵守に向けた適切な工程管理について、代表企業が独自に有するシステムに基づく具体的な提案がなされている点を評価した。 ・工程の進捗が遅れた場合において、その遅滞を回復する方法について代表企業の技術や経験に基づく実行可能性のある具体的な提案がなされている点を評価した。
イ 品質管理計画	<ul style="list-style-type: none"> ・整備・運営を一体で発注する DBO の特性を踏まえた品質管理体制について、適切な提案がなされていた。特に、代表企業が独自に有する技術や経験に基づく実行可能性のある具体的な提案がなされている点を評価した。 ・既存建築物を再利用するリニューアル整備の特性を踏まえた品質管理計画について、適切な提案がなされていた。 ・主要なプラント機械設備について、具体的な品質管理体制が提案されていた。
ウ 安全管理計画及び環境保全管理計画	<ul style="list-style-type: none"> ・工事期間中における労働災害等を防止するための安全管理体制について、具体的かつ適切な提案がなされていた。 ・周辺環境への影響（騒音・振動・粉じん）に対して、適切に配慮され、かつ実行可能性のある具体的な提案がなされていた。 ・既存建築物を再利用するリニューアル整備の特性を踏まえた安全管理計画及び環境保全管理計画について、適切な提案がなされていた。
7 事業計画	
ア 事業実施体制	<ul style="list-style-type: none"> ・応募者を構成する各企業の役割分担（業務内容等）と責任分担について、具体的かつ適切な提案がなされていた。 ・設計・建設・運営の各段階における実施体制及びバックアップ体制について、具体的かつ適切な提案がなされていた。 ・設計・建設・運営の各段階で要求水準書等の内容を遵守しているかを、応募者自らが確認（セルフモニタリング）し、本市がチェックできる体制及び手法について具体的かつ優れた提案がなされていた。特に運営維持管理期間中の履行水準のセルフモニタリング体制について、複層的かつ第三者を活用した多面的な提案がなされており、効果を期待できる点を評価した。
イ ライフサイクルコストの低減	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフサイクルコストの低減に向けた創意工夫について、優れた提案がなされていた。特に施設の長寿命化を実現するための提案について、代表企業が独自に有する技術や経験に基づく具体的な内容であった点を評価した。 ・本件施設を約 30 年間使用することを前提とした、20 年間にわたる効率的で費用対効果の高い維持管理を行うための優れた提案がなされていた。特に、代表企業が独自に有するシステムに基づく具体的かつ効果を期待できる提案がなされている点を評価した。

(6) 価格審査

委員長及び応募者の立会いのもとで開札を行い、予定価格の範囲内であり、価格審査は合格であることを確認した。価格審査結果は表－7に示すとおりである。価格審査では「落札者決定基準書」に基づき、入札価格について得点化を行った。（配点40点）

表－7 価格審査結果一覧

項目		応募者
		緑グループ
価格審査 (予定価格の範囲内であるか)		合 格
入札価格（税抜）		58,470 百万円
内 訳	（設計・建設業務費）	(39,600 百万円)
	（運營業務委託費）	(18,870 百万円)
価格点		40.00 点

$$\text{注) 価格点} = 40 \text{ 点} \times \left(\frac{\text{最低入札価格}}{\text{入札価格}} \right)$$

得点は小数点第三位を四捨五入した値とする。

予定価格 : 65,000,000,000 円 （消費税及び地方消費税を含む。）

入札書比較価格 : 59,090,909,091 円 （予定価格から消費税及び地方消費税を除いた価格。）

(7) 総合評価点の算出及び最優秀提案者の選定

「落札者決定基準書」に従って、表－8に示すとおり総合評価点を求め、緑グループを最優秀提案者として選定した。

表－8 総合評価点の算出結果

項目	応募者
	緑グループ
非価格要素点（配点 60 点）	43.50 点
価 格 点（配点 40 点）	40.00 点
総 合 評 価 点（配点 100 点）	83.50 点

応募者の構成

■応募者：緑グループ

構 成 員	(代表企業) 川崎重工業株式会社
	カワサキグリーンテック株式会社 東京支社
協力企業	徳倉建設株式会社 東京支店 渡辺建設株式会社 坂田建設株式会社 株式会社前田産業 東京支店

※協力企業は届出順のとおり記載

5 総評

本事業では1グループの応募者から提案を受けた。当該応募グループからの提案は、技術・運営面及び価格面双方において、民間事業者の創意工夫やノウハウが盛り込まれた内容であった。

審査委員会は、厳正なる審査の結果、緑グループ（代表企業：川崎重工業株式会社）を最優秀提案者として選定した。最優秀提案者の提案では、本事業のリニューアル工事の確実な履行やその後の運営に関する有効な提案が盛り込まれており、本事業に対する取組み姿勢に対しても高い評価であった。特に、ボイラシステムについて既存建築物の構造を踏まえて熱回収や蒸気利用の効率に最大限配慮した提案がなされていた点、火災等への安全対策として代表企業の技術や経験に基づく最新技術を積極的に提案していた点、事業内容の履行水準に応募者自らが確認するセルフモニタリングの体制について複層的かつ第三者を活用する多面的な提案がなされていた点など、様々な独自の提案がなされていた点が評価された。

本事業は、千葉市のごみ処理において基幹となる施設のリニューアル整備・運営事業であり、千葉市の基本的な方針である「3 用地 2 清掃工場運用体制」にとって不可欠な事業である。従って、施設周辺事業者等の理解を得つつ、設計・施工から運営まで、作業における安全性と安定操業の確保に取り組む必要がある。

今後、千葉市と川崎重工業グループが対等かつ良好なパートナーシップを構築し、公共事業の一環として事業目的の達成に向けた事業実施を期待する。そのため、川崎重工業グループに対しては、公共サービスの更なる向上のため、次の点に留意することを望むものである。あわせて、基本協定（案）第2条第2項に基づいて千葉市がこれらを配慮事項として要望しており、千葉市PFI事業等審査委員会はこのことを川崎重工業グループに明確に伝えとともに、双方が誠実な協議を重ねることにより、本事業がより良いものになっていくことを期待する。

- （1）資材価格等の外部要因による影響を踏まえつつ、コストマネジメントを徹底し、施設整備費への影響を抑制するための合理的な措置を講じること。
- （2）事業期間中において配置人員の不足等が生じないように、万全な運営体制を構築すること。
- （3）発災時における現場対応等の運用面を考慮した詳細設計を行うこと。
- （4）本事業は既存施設のリニューアル整備を含むDBO事業であるので、工事期間中の工程・品質・安全管理の計画については、リニューアル整備の特性を十分に考慮したうえで策定すること。
- （5）発注者である千葉市と密に連携しながら本事業を遂行すること。
- （6）プラント設備の更新により建屋に作用する荷重が変化することを踏まえ、建築物の構造安全性に支障を来さない設計とすること。

令和7年12月15日

千葉市PFI事業等審査委員会 委員長 山口 直也